

脱原発世界会議

2012 YOKOHAMA

とき：2012年1月14（土）～15日（日）

場所：横浜

主催：脱原発世界会議実行委員会 事務局：ピースボート

GREEN ACTION
Institute for Sustainable Energy Policy
isep 特定非営利活動法人
環境エネルギー政策研究所

**PEACE
BOAT**
原子力資料情報室(CNIC)
Citizens' Nuclear Information Center

GREENPEACE
FoE Japan



[趣旨]

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原発の事故は、世界に大きな衝撃を与えました。地震、津波、核災害という三重苦の中で日本の人々は、命の重みをかみしめながら、復興へ歩もうとしています。しかし原発はいまだ安定せず、労働者は過酷な業務を余儀なくされています。放射能汚染が広がり、子どもたちを含む多くの人が避難を強いられ、健康被害におびえています。地域経済は破壊されました。

スリーマイル島そしてチェルノブイリに続いて起きたフクシマの事故は、核技術はひとたび暴走すれば、人間の制御をこえ、国境をこえる脅威になることを改めて私たちに見せつけました。

フクシマでは、母親の母乳や子どもたちの尿から、放射性物質が検出されました。このことは、人間の命が、将来の世代にわたって脅かされていることを物語っています。

振り返れば、ヒロシマ・ナガサキに始まった核時代は、ウラン採掘、核実験、原発事故、核廃棄物の処分や輸送など、核の連鎖のあらゆる過程で、世界中にヒバクシャを生み出してきました。その命と権利は、安全保障や経済成長の名の下でないがしろにされてきました。その一方で原子力の「安全神話」が作られてきたのです。今日のフクシマでもまた、人々の健康や安全が軽んじられ、国家や産業の論理が優先されようとしています。日本政府が乳児をも含む公衆の放射線被曝の「許容」レベルを通常の20倍にまで引き上げたことは、それを示しています。

しかし、私たちはもう過ちを繰り返してはなりません。人類はいま、核と決別すべきです。命を尊び、自然と共生する持続可能な社会へと踏み出すときです。子どもや孫たちに夢と希望のある未来を託すことが、私たちの責任です。原子力からの脱却は、核兵器の廃絶と共鳴しあい世界の平和にも寄与します。経済的な効率性のみを重視し、戦争を繰り返してきた核時代を、もう過去のものにしましょう。

ヨーロッパでは、脱原発への動きが急速に広がっています。しかし、世界中の多くの地域では、原発を依然として重視する政府が少なくありません。

日本では、脱原発を支持する人々が半数をはるかに超え、原発依存を減らすことが閣議決定されました。しかし、脱原発が本当に可能なのかという疑問の声も少なくありません。原子力から脱却するための強い意思と明確な計画がいま、世界規模で求められているのです。

そのために私たちは、2012年1月、日本で「脱原発世界会議」を開催します。

「脱原発世界会議」は、二つのことをめざします。

第一に、世界の人々が日本に集まりフクシマの現実に学ぶと同時に、全世界の核被害者すなわちグローバル・ヒバクシャの声を集め、互いの経験に学びあう場を作ります。そして核の連鎖が人間と環境にもたらしている脅威を明らかにし、原子力からの脱却を世界に発信します。

第二に、世界の叢智を結集させ、原子力に頼らない社会をつくるのが現実的に可能であることを明らかにします。原発にかわる再生可能エネルギーを拡大するとともに、既存の原子力から安全に撤退する道筋を描きます。日本をはじめ世界各国が採用できる脱原発への行動計画を作り、提言します。

市民が率先して行動し、国連やその他国際機関、各国政府、地方自治体、企業、大学や学校、NGOや市民グループの連携を広げていきたいと思えます。多くの女性と男性、そして子どもたち、若者、親たちが参加し、国境をこえてつながり、原子力に頼る現在の文明の転換を促し、未来への希望を生み出す場をつくりたいと思えます。皆様のご協力をお願いします。

2011年9月

【仮プログラム案】

脱原発世界会議へは国内外からの様々なゲスト約 100 名を含め、2 日間でのべ 1 万人程度の参加 を見込みます。①全体会 ②4 つの主要なテーマを持つ分科会と複数のフォーラム ③自主企画、展示、ブースに分かれ非常に多岐にわたる下記のようなプログラムを予定しています。

なお、自主企画募集要項及び、プログラム詳細については 11 月初旬の発表を予定しています。

全体会 (1500 人規模)

- ① フクシマで何が起きているのか。何を学ぶのか
- ② 脱原発が可能であることを世界の声から明らかにする
- ③ 音楽イベント・世界の文化プログラム

分科会 (150 人～1000 人規模多数)

- I **フクシマ** (何が起きているのか。世界的な共通認識をつくる)
原発の状況／汚染の状況／労働者／県民の現状／政府・東電の「工程表」への対案
- II **代替エネルギーをつくる** (代替エネルギーが現実的に可能であることを明らかにする)
自然エネルギー／火力・水力／各国での事例／暮らしの転換／
原子力に依存しない地域経済／日本への政策提言
- III **原子力から安全に撤退する** (原発からの撤退シナリオを現実的に示す)
核燃料サイクル／原発輸出／ウラン輸出／既存施設の安全性強化／廃棄物
／核兵器とのつながり／地球温暖化と原子力
- IV **グローバル・ヒバクシャ** (被害を可視化し、被害者の課題解決へ世界市民が協力する)
広島・長崎／第五福竜丸／核実験／ウラン採掘／チェルノブイリ医療放射線の被害

フォーラム (600 人～1000 人規模)

「女性のフォーラム」「放射能から子どもを守る」「東アジア (日中韓) の脱原発」など

自主企画・展示・ブース

国内外から幅広く募集し、下記を予定。

- ・自主企画では「東北の市民によるもの」、「女性グループによるもの」、「子ども向けプログラム」、「原発立地地域からのもの」、「学生による企画」などのテーマ別に広く一般から募集
- ・世界の自然エネルギーに取り組む企業や、研究機関による博覧会風の自然エネルギー展
- ・世界中の自然エネルギーの教育、研究機関への留学説明ブース
- ・写真展など

※会議前後日程で福島の実地見学 (現地交流会) も計画

※会議内容はインターネットを通じて全世界に中継

【成果物と波及効果】

1. 脱原発世界宣言

世界に原発と核の危険を訴え、原子力に頼らない社会を共に築くことを訴える宣言。フクシマの 現実およびフクシマが投げかけた問題を伝えるメッセージをもちつつ、世界の核被害者 (グローバル・ヒバクシャ) の声を盛り込む。

2. 脱原発行動計画

原発のない社会を実現するために政府、自治体、企業と経済界、国際機関そして市民がとること のできる行動を具体的な方法、時期、指針とともに示す。主に日本を念頭に置くが、現在原発に依存して いる多くの国で活用できるものにする。

■考え得る波及効果

- ・記録 DVD の製作や書籍の出版
- ・学生を対象とした自然エネルギー留学紹介や基金の創設
- ・日本や世界の自治体や企業がタイアップした新規プロジェクト創設
- ・チェルノブイリをはじめとする世界中の核被害対策のフクシマへの適用

[実行委員会について]

2012年1月に開催される脱原発会議は下記6団体により実行委員長を吉岡達也（ピースボート共同代表）とする実行委員会が形成され、ピースボート内に事務局が設置されます。

ピースボート、環境エネルギー政策研究所（ISEP）、グリーン・アクション
グリーンピース・ジャパン、原子力資料情報室、国際環境NGO FoE Japan

《事務局連絡先》

ピースボート（担当：山元、野平）

TEL：03-3363-7561 FAX 03-3363-7562

Add：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1 ノークビルB1

E-mail：yamagen@peaceboat.gr.jp, nohira@peaceboat.gr.jp